

AAAコンサルティング株式会社

代表取締役社長

田所康二

人を大切に思う姿勢を忘れずに



PROFILE

田所康二

1968年生まれ、東京都出身。大学卒。大手リゾート会社に入社。土地活用の面白さに目覚め、大手不動産会社へ転職。その後も不動産業界で資産運用など幅広い分野で活躍。それまでの経験を生かす形で、2012年にAAAコンサルティングを設立。独自のビジネスモデルとなる不動産業界に特化したコンサルティングやコールセンター業務は高い評価を得ており、今後のさらなる成果に期待が集まる。

<http://aaa-c.jp>


※本サイトに掲載している情報は取材時点のものです。

INTERVIEW

会社経営を行っていく上で何よりも大切なのは人材です。特に当社が行っている不動産コンサルティング事業は、人がいて初めて成り立つビジネス。だからこそ日頃から人に感謝し、人を大切に思う姿勢を忘れてはいけません。そして今後もお客様のみならず、社員に対しても“働きやすい環境”を提供していきながら、人とともに会社を成長させていきたいです。人に恵まれ、人に支えられてきたからこそ、今の私があるわけですから。

内気な少年が、活発な大人へ

小学生の頃は人前で話すことが苦手なタイプでした。教科書を皆の前で読むことさえも恥ずかしく思ってしまうほど、それがコンプレックスになっていたんです。しかしある時、そんな私を見かねた友人が、「人前で話す練習をしよう」と放課後の体育館に私を連れ出しました。体育館に置かれていた跳び箱の上に立ち、スピーチの練習をするためです。思い起こせば、今こうして人と密接に関わる仕事に就くことができたのも、その友人の助けがあったからなのかもしれません。人のために何かをしてあげようという思いが、人の人生を大きく変えることだってある。それを身をもって実感したのです。

高校生の頃には自ら生徒会へ立候補するなど、以前とは見違えるような自分に変貌していました。人前に出て話すことが大好きになり、それでも飽き足らず自らバンドを組んでボーカルをやっていたほど。また学生時代には、たくさんアルバイトも経験するようになりました。中でも力を入れていたのがスポーツクラブのインストラクターです。私が担当していたのは幼児体育という部門で、子どもたちに運動を教える仕事。夏になると皆でキャンプに行くこともありました。その際によく利用していたのがリゾート施設です。人里離れた山奥に施設をつくることで、子どもたちがのびのびと野外教育を受けることができる。学生ながらに感心したことを覚えています。そんな経緯もあり、「自分の好きなことを仕事にしてみたい」と、リゾート会社への入社を決めたんです。



人が嫌がる仕事も、自らの糧にして

社会人時代はどんな業務でも率先して取り組みました。何事もチャンスだと捉え、たとえ人が嫌がる仕事であっても任されたからには一生懸命やる。とにかくがむしゃらに打ち込む社員だったと思います。そんな中で私が一番興味を持ったことは、リゾート会社ならではの土地活用です。山を削り、全国各地にリゾート施設ができていく。一つのホテルやマンションが成り立つまでの過程に大きな魅力を感じました。そして私はその興味をさらに深めるため、大手不動産会社へ転職。大規模なビル開発に携わり、まったく何も無い土地に一から建物をつくりあげていく仕事に喜びを見出していったんです。

しかしそんな矢先、人事部への異動を命じられました。部署は変わっても率先して取り組む姿勢に変わりはありませんでした。そして仕事に必死で取り組むうちに、一つのことに気づかされました。それは良い人材に恵まれることで、会社は大きく成長するのだということです。企業にとっていかに人材が大切なのかということを知りました。この時の経験がなければ、私が会社経営に携わることもなかったと思っています。

その後、積み上げてきた経験や実力を他の分野でも生かしてみたいと考えるようになり、いくつかの会社を経験。それと同時に人脈を広げていながら、当社の株主との出会いを機に、会社を設立するに至りました。設立当初は社員3人の小さな会社。机を4つ並べ、何もないところからのスタートでした。しかしビジネスというのは本当に面白いもので、一つひとつ着実に歩いていくうちに多くの人に恵まれていくものです。だから今となっては、何も怖いものではありません。私の周りには優秀な社員や日頃支えてくれるお客様がいますし、そうやって人の力が集まれば何だって実現できると本気で思います。人が持つ力を信じているんです。それは小さな頃からずっと肌で感じてきた、私のビジネスの原点でもあります。

若いうちはとにかく目の前のことにがむしゃらに挑戦していきながら、道を切り開いていくべきです。そうすることで多くの人に恵まれるようになり、素敵な未来を築くことができるようになるはずです。

[< 一覧へもどる](#)